

# L O R O

mono × MITSUI Designtec

LOVE DESIGN LOVE LOGO  
14  
LOVE LOGO LOVE CONCEPT

定価 1200 円

## おもてなし上手の キッチン&ダイニング

自分らしさを表現しましょう。

ステキだなと感じるキッチン&ダイニングには  
その人らしさがでています。居心地のよい空間づくりの  
ヒントを学んで、部屋でホームパーティを！

### 美人をつくる バスルーム&パウダールーム

クリエイターの住まい  
エーロ・アアルニオノ石本藤雄

フィン・ユール生誕100周年企画

マリメッコ本社を訪ねて

### デザイン・ウィーク2012

保存版 ブランドディクショナリー

WORLD MOOK  
平成25年1月5日発行(通巻962号)  
ワールド・ムック962



# クリエイターの 住まい

## フィンランド巨匠デザイナー 特別編

表現活動が人生そのものでもあるクリエイター。豊かな感性に包まれた彼らの家は、様々なヒントを教えてください。今回はフィンランドを拠点に活躍する巨匠の家へ。北欧の四季を楽しみながら暮らす2氏の部屋を紹介します。

Photo=原田智香子 HARADA Chikako  
Text=川上典幸子 KAWAKAMI Noriko





1

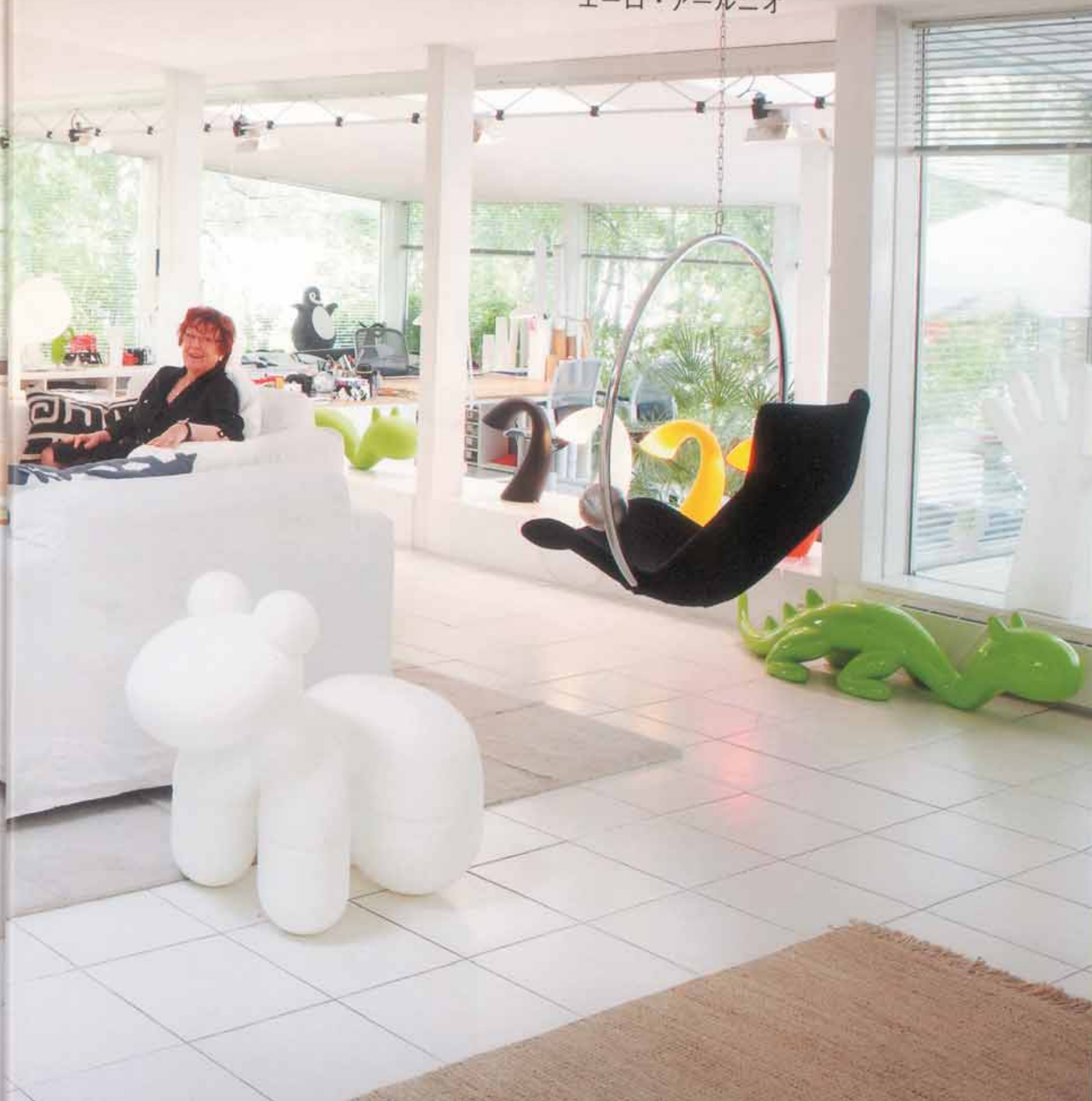
念願の「水辺」に自ら設計。  
生活と共にあるデザインの時間



デザイナー

**EERO AARNIO**

エーロ・アールニオ





4

6



1

3

5





7



8



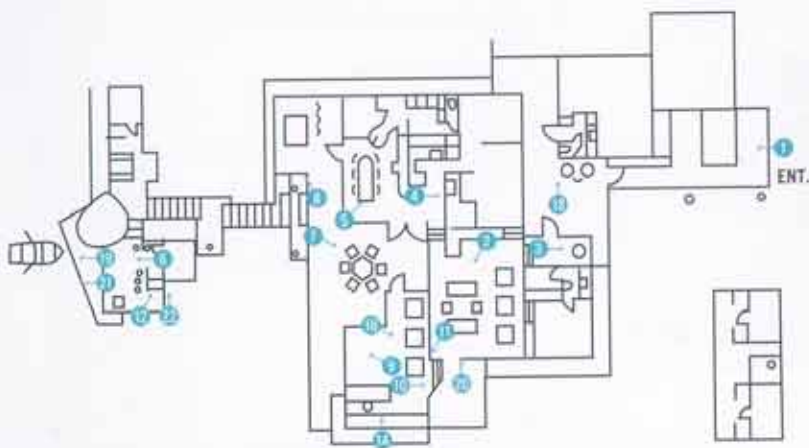
「水辺に住むことが長年の夢でした」  
 1960年代に発表されたポール・  
 チェアやバブル・チェアなど、革新的  
 なデザインで注目を集めて以来、デザ  
 イン界を牽引してきたエーロ・アール  
 ニオ。今年80歳の巨匠が暮らすのは、  
 ヘルシンキ近郊、ウェイッコラに自ら  
 設計した家だ。湖畔に建つこの家に、  
 彼の仕事場もある。

幼い頃、父が連れていってくれたヘル  
 シンキ郊外のセウラサリでよく泳  
 いだというエーロ。「水は大切。水辺の  
 家を長く探してきました」  
 「20代で結婚した時にはお金もなく、  
 ヘルシンキ市内のとても狭い家に暮ら  
 していました。仕事机も置いてね。でも  
 セロから始めればいいじゃないかと  
 ……樂觀主義者なんです（笑）。初め  
 て家を買ったのは40歳で、その後、家  
 を買い替えながら理想の環境を探し、  
 1986年にこの場所に出会えまし  
 た。17軒めとなる家です」  
 家は1988年に完成、翌年からこ  
 こに暮らす。

特色は、広々としたリビングを中心  
 に、仕事場やキッチンなどが壁を持た  
 ずにつながっていること。湖に向かっ  
 てゆるやかに傾斜する敷地に建つこと  
 から、部屋と部屋の間には数段の階段が  
 つくられ、そのことで開放的な室内が  
 柔らかに区切られている。外と室内を  
 結ぶデッキの活かし方もみごとだ。

室内では彼がデザインした家具や照  
 明器具が大活躍。色とりどりの品が全  
 体として調和しているのは、白を基調  
 に、光に包まれた空間だからだろう。  
 配された色のバランスも、さすが。





1この地にあったオークの樹。2「バステイル・チェア」や「ボニー・チェア」など自作家具が集合。マジストレッティ、カスティリオーニの照明も。右奥に仕事場。3「ボール・チェア」、4アレッシィのボトルオープナー「マウス」が並びキッチンには薪オープン。5アルテックのスツール「ロケット」。6湖を楽しむ。7.8室内外がデッキでつながる。9マジス「パビー」が勢揃い。10照明「ゴースト」、「ディーノ」。11奥に「ピンギー」も。12湖畔のサウナ。13アレッシィ「ディーバ」。牛乳パッケージもエーロ作。14仕事机。15ビルッコ夫人です。16色が随所に。17アクセサリー作品。18「バブル・チェア」で。19.21.22湖畔で。20「最も革新的なデザイナー」とその名はニューヨークタイムズのクロスワードパズルにも登場。

#### エーロ・アールニオ EERO AARNIO

1932年、ヘルシンキ生まれ。1962年に自身のスタジオを設立。「ボール・チェア」(1963年)で脚光を浴び、国際的な名声を得る。以来、素材の特性を活かした革新的なデザインに取り組むデザイン界の重鎮。「朝まで、デザインを考えるのは朝が多い」そう。



湖畔には1999年完成のスモークサウナもあり、こちらもエーロ自身の設計だ。扉のトッ手は「いつかサウナをつくるときに使おうと、40年前に購入したもの」だとか。増築も重ねられてきたエーロ邸には、こうしたすてきな物語が多数あった。育てるように家とつきあう時間の大切さを、私たちに教えてくれる。

「素材の特色や機能を熟知することで、自由なデザインを実現できる。デザインで大切なのは、考えぬかれた機能性」と、一貫して持論の実践に挑んできたデザイナーの家。ビルッコ夫人が笑顔で次のように語ってくれた。「この家を気に入っているわ。何をするのかによって、どの場所も居心地がよくって。お客様が来たら一緒にごはんをつくったり、本当に楽しいのよ」

